

スモンの主症状である痙性麻痺に対する鍼灸マッサージ治療回数増減の比較

藤木 直人（国立病院機構北海道医療センター）

竹内 徳男（北海道保健福祉部健康安全局）

藤本 定義（中央鍼マッサージ治療室）

藤本 純子（中央鍼マッサージ治療室）

稲垣 恵子（公益財団法人北海道スモン基金）

高橋 敦子（公益財団法人北海道スモン基金）

研究要旨

スモン患者の多くが抱える痙性麻痺による疼痛に対して鍼灸マッサージ治療の有効性を報告してきたが今までの治療回数では症状の緩和が一時的であり、治療回数を増やした場合治療効果が上がるのか、左下腿外側の夜間痛が原因の睡眠障害が主訴の患者 症例 1 と頸部後側、背腰部の強い痛みが主訴の 症例 2 を報告する。症例 1 の患者は週 1 回の治療を 2 回に増やし、症例 2 の患者は週 2 回の治療を週 5 回に増やした。結果、症例 1 の患者は週 1 回の治療に比べ夜間の強い筋緊張が改善し連続睡眠時間が長くなった。症例 2 の患者は回数を重ねることで症状に改善が見られた。スモンの主症状である痙性麻痺による筋緊張は、症状の重い患者だと 1 回の治療では緩和は難しく緩和してもすぐ戻るため改善を図るために治療回数の増加が望ましい。

A. 研究目的

スモン患者の多くが痙性麻痺による夜間の過緊張が引き起こす疼痛などで睡眠が阻害され、症状が重い場合には体調を崩し入院した例もある。このような症状に対して鍼灸マッサージ治療の有効性を報告してきた。しかし今までの治療回数では症状の緩和が一時的であり、治療回数を増やした場合治療効果が上がるのか二つの症例で検証する。

B. 研究方法

症例 1：88 歳女性

痙性麻痺による夜間左下腿外側の筋緊張が非常に強く激しい痛みを伴うため、睡眠もままならない。それにより体調を崩すことが多くなり、週 1 回の治療を週 2 回に増やした。他に右腰痛と右膝内側痛がある。

治療は腓腹筋と前脛骨筋の過緊張を抑えるためにマッサージ、鍼は単刺で陽陵泉・陽交・懸鐘に刺鍼した。

腰痛に対しては硬結部位にマッサージと単刺で腎俞・大腸俞・殿点に施術した。右膝内側の痛みには、赤外線を当てながら内膝眼に置鍼した。

症例 2：63 歳女性

痙性麻痺により、頸部後側、背腰部、特に脊柱起立筋の筋緊張が非常に強く痛みを伴う。週 2 回治療を行っていたが 1 日で症状は元に戻りさらに寒さが加わると症状が悪化するため週 5 回に増やした。

治療は、痙性麻痺による筋緊張を抑える目的で頸部と背腰部、特に脊柱起立筋を中心に全身マッサージを行った。鍼は頸部、背腰部の天柱・肩中俞・肺俞・膈俞・肝俞・腎俞・大腸俞に単刺で刺鍼した。

C. 研究結果

症例 1：1 回の鍼マッサージ治療では腓腹筋と前脛骨筋の緊張を和らげるのが難しかったが、週 2 回の治

表1 症例1のスモン個人調査票 (抜粋)

スモン症候		身体的合併症
歩行:	つかまり歩き	白内障
下肢筋力低下:	中等度	大股腱室
下肢痠痛:	軽度	喘息
下肢筋萎縮:	なし	圧迫骨折
上肢運動障害:	あり	高血圧
異常感覚障害:	軽度 腕以下	バセドウ病
程度 軽度: 中等度低下 遠視: 中等度低下		季節・陣汗異常
下肢運動覚障害:	中等度	左肩痛
異常知覚:	軽度 中等度	
内容 足裏付着感、しめつけ、じんじん、痛み、冷感		
上肢知覚障害:	ときどきないし夜間症状のみ	
上肢深部反射:	低下	
膝蓋腱反射:	低下	
アキレス腱反射:	低下	
腱反射:	軽度 弱いが強くなる 内容 ときどき強弱	

表2 症例2のスモン個人調査票 (抜粋)

スモン症候		身体的合併症
歩行:	一本足	白内障
下肢筋力低下:	高度	頸椎固定
下肢痠痛:	なし	腱鞘炎
下肢筋萎縮:	高度	虫歯症
上肢運動障害:	あり	
異常感覚障害:	軽度 乳以上	
程度 軽度: 高度低下 遠視: 高度低下		
下肢運動覚障害:	高度	
異常知覚:	軽度 高度	
内容 足裏付着感、しめつけ、じんじん、痛み、冷感		
上肢知覚障害:	常にあり	
上肢深部反射:	正常	
膝蓋腱反射:	亢進	
アキレス腱反射:	亢進	
腱反射:	軽度 ひどく弱んでいる 内容 常に便秘	

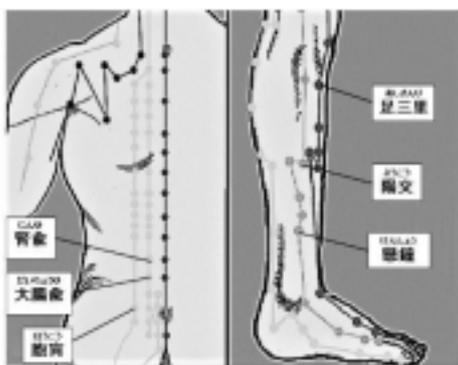


図1 症例1の主要経穴



図2 症例2の主要経穴

療を続けることによりかなり筋緊張を和らげることが出来た。夜間の強い筋緊張も治療後3日間は起こらなかった。腰部、膝関節の痛みも週1回の治療に比べ週2回の治療でより症状が改善した。どちらの症状も1週間ではほぼ元に戻るが少しずつ改善がみられる。

症例2: 以前までの週2回の治療ではマッサージと鍼により頸部、背腰部の筋緊張を和らげることが出来たが治療後1日で症状が戻った。治療を週5回に増やした後は、週2回の治療と比べ筋緊張が和らいだ。そのため筋緊張による日常的な痛みに対するストレスも軽減できた。

E. 結論

スモンの主症状である痙性麻痺による筋緊張は痛みを伴い夜間に症状が悪化することが多く、睡眠が障害されるなど患者の負担が大きい。鍼灸マッサージ治療では筋緊張を和らげるにより痛みや夜間の症状悪化を抑える目的で今日まで行ってきたが、症状の重い

患者は1回の治療で筋緊張の緩和が難しくすぐに戻る。治療回数を増やすことによりある程度改善された。このことからスモンの主症状の重い患者に対しては治療効果を上げスモン症状の改善を図るためにも治療回数の増加が望まれる。